

情報セキュリティ政策会議へのコメント

平成19年8月2日
KDDI株式会社 社長兼会長
小野寺 正

(1) 政府機関の情報セキュリティマネジメントに関する評価結果について

政府機関の情報セキュリティマネジメントに対する取り組みがかなり良くなってきていることは評価に値します。また、ベストプラクティスを積極的に取り上げることが、セキュリティを担当している職員に対する励みにもなります。

一方、積極的に取り組んでいる組織と受け身で取り組んでいる組織との間で、差が広がらないよう全体的な底上げに努力する必要があります。

(2) 重点検査及び評価結果について

政府機関の情報セキュリティ対策の実施状況に関する重点検査及び評価結果については、昨年度と比較し、極めて良好な実施率を達成されたことにつき、高く評価できると思います。

一方、これまでの計画では、具体的な対策の総合評価は、「実施率、到達率（達成率）」の視点から実施・推進するものでありますので、今後は、さらに重点検査項目を拡大し、個々の情報セキュリティ対策の目的（目標）に対応した「到達率（達成率）」を含めた総合評価が必要であると考えます。現在の重点検査の高い評価結果を継続し、ぜひとも効果的な評価の実施を推進していただきたい。

(3) 情報セキュリティ政策における「具体的目標」の設定について

具体的な目標設定は、セキュリティ評価を進める上で重要な作業です。通常、PLANフェーズにおいて具体的な目標の設定がなされ、それに対応した対策実施がDOフェーズで施行されます。今回の具体的な目標設定は、評価（CHECK）の段階で議論が追加的・補足的になされているように見えますが、今の段階（CHECK）で具体的な目標設定を行うことは、適正なセキュリティ評価を阻害するものにならないとも言えません（後出しじゃんけんの）。従いまして、例えば、今回は暫定的な目標を設定し、次年度計画のPLANフェーズで今回の評価・分析結果を十分に考慮して、より現実的で具体性のある目標の再設定を行うことがスムーズな解であると考えます。

(4) 情報セキュリティ分野における国際協調・貢献（国際戦略）について

国際的な協調活動、国際貢献活動を推進するために、まずは政策の方向性に関わる基本的な合意をとることは重要であり、今回の進め方は評価できるものと考えます。ただし、「国際協調・貢献」と「(国際戦略)」という2つの言葉の間には相当な距離が感じられるため、むしろここでは、「(国際戦略)」という言葉を用いずに「国際協調・貢献に向けた取り組み」と簡単に表現されてはいかげんでしょうか。

以上